

4章 情報収集力

年 組 番 氏名

今回の授業の位置づけ

- 実際に行う研究テーマについての情報を収集することが目的ではない。
- インターネットを用いた情報検索を体験する機会とする。

ねらい

- 情報を収集するためのメディアの種類と特性を学ぶ。
- 情報を収集する際に、注意すべきことや有効なツールがあることを知る。
- ・ ○集めた情報の引用の仕方を学ぶ。

※探究活動や課題研究の段階

「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」

(情報収集は必要に応じて複数回行われることが望ましい)

準備 (5分)

- 1 プリント、**課題2**で使用する付箋及び付箋を張るシート（A3用紙へ印刷）の配布
- 2 4人グループの作成（4人グループにできないときは3人グループ）
- 3 グループで机を向かい合わせにする。

課題1 〈個人 課題①〉 資料を読んで理解 (5分)

(1) ねらい

- 情報を収集するために必要な基礎的な考え方を知る。

(2) 内容（取り組むこと）

- 各自が以下の〈資料①〉を読む。

〈資料①〉

1. 情報収集力の必要性

インターネットが普及していなかった時代は、情報を簡単に入手できなかったため、知識が多かったり、物事をよく知っていたりする人が重宝された。しかし、現在では誰でも手軽にインターネット等で、膨大な情報を瞬時に手に入れることができるようになった。

したがって、現代では知識が多く、物事をよく知っていることよりも、価値の高い有用な情報を探し出し、活用できる能力のほうが重要な時代となった。つまり、自分にとって必要な情報を的確に収集できる力（情報収集力）を身につける必要がある。

2. 情報収集の基本

1. 自分自身の知識を把握する（メタ認知）

情報収集を行う前に、まずは自分自身がどの程度の知識を持っているかを把握しておかなければならない（メタ認知的活動）。その上に立って、どの手段でどの用語を調べるかを考える。

2. 用語を調べる（定義を知る）

情報収集の第1歩は、用語（語句）の意味をしっかりと調べることである。用語の定義や正確な意味を知らなければ、的外れな情報を集めることになったり、勘違いをしたまま研究や調査を行っていくことになってしまう。また、関連事項などもしっかりと意味を把握しておくことが必要である。辞書や事典などを確認したり、専門用語については必ず教科書や専門書で確認をする（専門用語については国語の辞書などとは異なった定義などがされている場合があるため注意する）。

3. 複数の情報源を調べる（信憑性を確認）

情報収集において、1つの情報源だけの情報を鵜呑みにしてしまうのは危険なことである。クリティカルシンキング（批判的思考力）をはたらかせ、情報の信憑性を複数の情報源にあたることで確認する。

4. 調べた情報を記録しておく（情報をまとめておく）

調べた情報は必ずメモ等の記録をとっておく。人間の記憶力は弱いので、すぐに忘れてしまったり、曖昧になってしまったりする（メタ認知的知識）。論文や発表を行う際に参考文献を記載したり、文章を引用したり（詳細は引用の仕方や参考文献の書き方で学習予定）するため、情報は「いつ」、「どこで」得たものかを明確にしておかなければ、信頼性にかけ、使えない情報となってしまう。

また、取得した情報と記録はできるだけ1箇所にまとめておくとい（詳細は情報整理力で学習予定）。情報は、必要なときにすばやく取り出せないと情報としての意味がない。



図1 情報収集の基本

3. 情報収集のためのメディア

情報収集で心がけることは多様なメディアを使用することである。手軽だからといって安易にインターネットのみで調べてはいけない。メディアにはそれぞれ特徴があるので、それを生かして、情報収集することが大事である。

1. メディアの種類と特性

「図書」「新聞・雑誌」「論文」「データベース」「Web サイト」「映像・音声」「フィールドワーク」など、情報を伝える媒体のことをメディアという。これらのメディアには長所と短所があるので、それらの特性をふまえ、豊やかたよりのない情報収集が大切である。メディアの特性について理解することが資料収集成功のカギとなる。

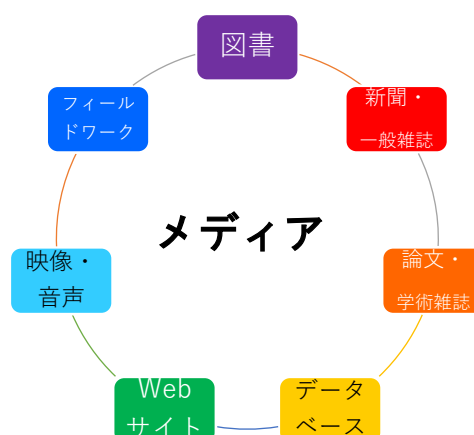


図2 メディアの種類

課題2 〈グループ 課題①〉 情報の生産と流通 (10分)

(1) ねらい

- さまざまな種類の情報がどのように生産され、流通しているのかを学ぶ。

(2) 内容 (取り組むこと)

- ① グループ内で分担し、以下のメディアを1つずつ付箋にかく。

一般雑誌

Web

学術雑誌

教科書

公的資料

新聞

辞書・事典

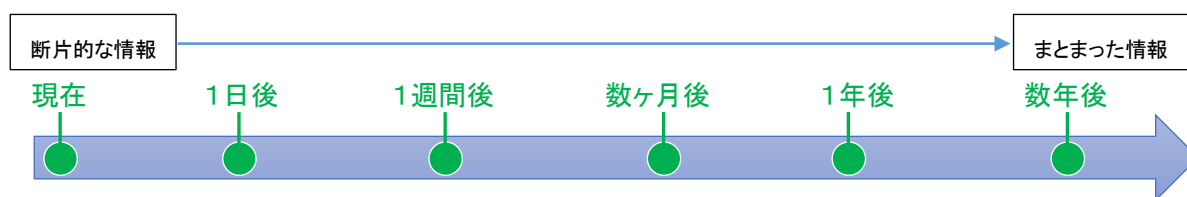
テレビ

図書

ラジオ

- ②グループで相談し、メディア名を書いた付箋を、情報が生産されてから取得できるまでの時間(=情報のまとまり具合)にあわせて貼る。

課題2 情報の生産と流通



付箋を貼る

課題3 〈個人 課題②〉 メディアの特性を考える (15分)

(1) ねらい

- 情報を収集するためには多様なメディアがあることを知る。
- メディアの長所と短所を考えることで、その特性への理解を深める。

(2) 内容 (取り組むこと)

- 以下のメディアについて、各自がその長所と短所、およびその理由を考え、表に記入する。

【図書 新聞・一般雑誌 論文・学術雑誌 データベース Web サイト 映像・音声 フィールドワーク 】

課題3 メディアの長所と短所

メディア	長所	短所
図書		
新聞・ 一般雑誌		
論文・ 学術雑誌		
データベース (統計資料)		
Web サイト		
映像・音声 (テレビ・ラジオ・Web等)		
フィールドワ ーク(実地調査)		

課題4 〈グループ 課題②〉 個人で考えたメディアの特性を共有 (10分)

(1) ねらい

- メディアの長所と短所を他者と共有し、その特性への理解を深める。
- グループで知恵を寄せ合うことで、より多様な考えが広がっていくことを体感する。

(2) 内容(取り組むこと)

課題3で考えたメディアの長所と短所をグループで共有し、赤ペンで自分の考えになかった部分や気づかされた部分を課題3の表に付け足す。

課題5 〈個人 課題③〉 資料を読んで理解 (15分)

(1) ねらい

- 情報収集を行うための各メディアについて基礎的な内容を知る。

(2) 内容(取り組むこと)

- 〈資料②〉を読む。

〈資料②〉

(1) 図書

①図書館の利用

図書館は、無料で利用することができる便利な公共施設である。一般の書店では入手できない、絶版になった本にも出会うことができる。新聞や雑誌、CD や DVD の視聴や貸し出しも可能で、オンラインデータベースを利用できる図書館もある。さらに、他の図書館からの資料の取り寄せや、パソコンの貸し出し、自分のパソコンの持ち込みができる図書館もある。また、利用者に対して、特定の主題に関する各種情報資源や探索方法を紹介・提供するパスファインダーがつくられている。

②図書館ウェブサイトの利用

公共図書館、大学図書館のウェブサイトでは、開館カレンダー、蔵書検索や予約、リクエスト、自分の利用状況確認、貸出延長を行える機能や、ウェブサイトから郷土資料が見られる。まずは身近な図書館のウェブサイトをチェックしてみる。

図書館の蔵書検索のシステムを **OPAC (Online Public Access Catalog : オパック/オーパック)** と呼び、多くの図書館が導入している。この OPAC はウェブサイト上に公開され、自宅から本を検索することができる。特に、**国立国会図書館**は日本国内で出版されたすべての出版物を収集・保存しており、その蔵書検索システム (NDL-OPAC) で書誌情報を調べることができる。

③書誌情報検索サービス

◆カーリル <http://calil.jp/>

全国にある複数の図書館の蔵書を同時に検索することができる。また、Amazon 等の書誌データも同時に検索できる。

◆Webcat Plus (ウェブキャットプラス) <http://webcatplus.nii.ac.jp>

全国の大学図書館や国会図書館の情報を検索することができるデータベースである。キーワードから検索する「連想検索」と、本のタイトルから検索する「一致検索」の2つの検索方法がある。

◆新書マップ <http://kaze.shinnshomap.info/>

新書とは、文庫本より少し大きなサイズの書籍の一つのジャンルである。新書マップを使うと、検索したキーワードから関連性の高い新書を検索することができ、テーマ作りの参考にもなる。

④図書の分類：日本十進分類法（NDC）

日本の図書館では、日本十進分類法(NDC)という図書の分類法で本が並んでいる。

00 総記	10 哲学	20 歴史
01 図書館、図書館学	11 哲学各論	21 日本史
02 図書、書誌学	12 東洋思想	22 アジア史、東洋史
03 百科事典	13 西洋哲学	23 ヨーロッパ史、西洋史
04 一般論文集、一般講演集	14 心理学	24 アフリカ史
05 逐次刊行物	15 倫理学、道徳	25 北アメリカ史
06 団体	16 宗教	26 南アメリカ史
07 ジャーナリズム、新聞	17 神道	27 オセアニア史、両極地方史
08 叢書、全集、選集	18 仏教	28 伝記
09 貴重書、郷土資料、その他の特別コレクション	19 キリスト教	29 地理、地誌、紀行
30 社会科学	40 自然科学	50 技術、工学
31 政治	41 数学	51 建設工学、土木工学
32 法律	42 物理学	52 建築学
33 経済	43 化学	53 機械工学、原子力工学
34 財政	44 天文学、宇宙科学	54 電気工学、電子工学
35 統計	45 地球科学、地学	55 海洋工学、船舶工学、兵器
36 社会	46 生物科学、一般生物学	56 金属工学、鉱山工学
37 教育	47 植物学	57 化学工業
38 風俗習慣、民俗学、民族学	48 動物学	58 製造工業
39 国防、軍事	49 医学、薬学	59 家政学、生活科学
60 産業	70 芸術、美術	80 言語
61 農業	71 彫刻	81 日本語
62 園芸	72 絵画、書道	82 中国語、その他の東洋の諸言語
63 蚕糸業	73 版画	83 英語
64 畜産業、獣医学	74 写真、印刷	84 ドイツ語
65 林業	75 工芸	85 フランス語
66 水産業	76 音楽、舞踊	86 スペイン語
67 商業	77 演劇、映画	87 イタリア語
68 運輸、交通	78 スポーツ、体育	88 ロシア語
69 通信事業	79 諸芸、娯楽	89 その他の諸言語
90 文学	本に張られているラベルの見方 421 イ 1 ← NDC の分類番号 ← 第一著者の頭文字 ← 巻冊番号	
91 日本文学		
92 中国文学、その他の東洋文学		
93 英米文学		
94 ドイツ文学		
95 フランス文学		
96 スペイン文学		
97 イタリア文学		
98 ロシア、ソビエト文学		
99 その他の諸文学		

日本十進分類法 NDC(Nippon Decimal Classification)

①類目標(第1次区分) 1桁目

0	総記
1	哲学
2	歴史
3	社会科学
4	自然科学
5	技術・工学
6	産業
7	芸術・美術
8	言語
9	文学

②網目標(第2次区分) 2桁目

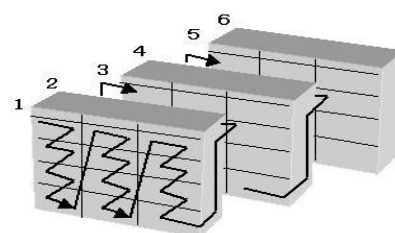
40	自然科学
41	数学
42	物理学
43	化学
44	天文学・宇宙
45	地球科学
46	生物科学
47	植物学
48	動物学
49	医学・薬学

③要目標(第3次区分) 3桁目

420	物理学
421	理論物理学
422	
423	力学
424	振動学、音響学
425	光学
426	熱学
427	電磁気学
428	物性物理学
429	原子物理学

[本を書架に並べるときのルール]

図書館の本は NDC ラベルの順に
下図のように並べる。



⑤読むべき本かのチェック

自分が必要としている内容の本であるかをチェックするためには、パラパラと読んで概要をつかむ必要がある。このパラパラと読む読み方を「ブラウジング」という。ブラウジングにしたい読みのテクニックには「スキミング（ざっと読む）」と「スキヤニング（キーワードを拾い読む）」がある。

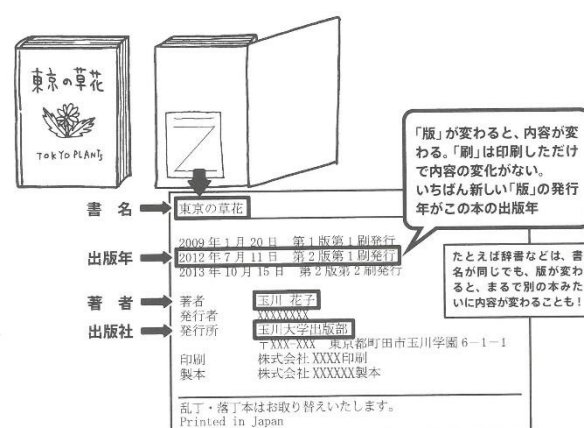
基本のチェック項目

- ☐ 書名（タイトル）
- ☐ 序文を読む
- ☐ 目次
- ☐ 索引

⑥本の出典の見方

図書について情報は、はじめの方にある「序文」や最後にある「^{おくづけ}奥付」で確認をする。

●著者	奥付で確認
●出版社	
●出版年、改訂情報	奥付・序文で確認
●読者対象と目的	序文で確認



後藤芳文他 『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』 玉川大学出版部、2014年より

本の出典の書き方の例 著者名『書名』出版社名、出版年

桐生花子『桐生の草花』 桐生高校出版社、2017年

インターネットではピンポイントの文献検索ができるが、実際に図書館や本屋に足を運ぶと、目的の文献の周囲に並んでいる本も眼に入り、視野を広げることに大変役に立つ。できるだけ、図書館に足を運び、情報収集力を高めてください。

(2) 論文・学術雑誌

インターネット上の論文データベースには、有料のものもあるが、無料で手に入る論文も数多くある。

【論文の要旨（Abstract）をチェック】

難しい論文や長い論文の場合、すべてを読むのは時間がかかり、効率的とはいえません。その論文が研究に役立つかどうかを知るために、論文内容を要約した「要旨（抄録、アブストラクト）」を読むとよい。

①CiNii (Citation Information by Nii / 「サイニィ」と読む) <http://ci.nii.ac.jp/>

国立情報学研究所（NII）が管理する国内の論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベース・サービス。論文の書誌情報だけではなく、要旨（Abstract）が読めたり、論文全体が PDF ファイルで読めることもある。



②Google Scholar(グーグルスカラー) <http://scholar.google.co.jp/>

Google の学術的な検索サービス。国立情報学研究所（NII）が大学などに提供してきた国内の学術論文データを Google による検索対象とした。さらに、Google が提供しているため、英語などの外国の文献検索もできる。

→「検索キーワード PDF」と入力すると、インターネット上で読める（PDF 化された）論文だけが検索される。



論文の出典の書き方の例

著者名「論文タイトル」『雑誌名』巻号、発表年月

塩谷京子、堀田龍也「児童生徒の情報活用スキルの習得と司書教諭の指導効果に関する検討」『教育メディア研究』17(2)、2011年3月

※著者が3名以上の場合は、「塩谷京子他」と書く。

(3) 新聞・一般雑誌

新聞や一般雑誌は継続して定期的に刊行され、多くの図書館ではOPACで検索ができる。また、新聞社が提供する有料のデータベースサービスがあり、図書館などが契約していれば使うことができる。

新聞データベース例

朝日新聞：朝日けんさくくん、聞蔵Ⅱビジュアル ／ 毎日新聞：毎索 ／
読売新聞：スクールヨミダス、ヨミダス文書館 ／ 日本経済新聞：日経テレコン21

新聞の出典の書き方の例

記者名「記事名」『新聞名』記事日付 朝夕刊 版（ページ）

桐生太郎「台風9号爪痕深く 土石流注意呼びかけ」『桐高新聞』2017年11月1日夕刊14(1)

雑誌の出典の書き方の例

執筆者（記者・文責者）「記事タイトル」『雑誌名』巻・号

※記事の執筆者が不明の場合は記事タイトルから書く

桐生一郎「動物は言葉をどこまで理解するか？」『動物ジャーナル』2016年10月号(Vol.459)

急増する老老介護 疲弊する家族『月刊 健康と長寿』2014年11月号(Vol.67)

(4) データベース (統計資料)

ウェブサイト上でも、様々な統計資料が公開されている。統計資料を使うメリットは、事象を正確に把握でき、動向の予測や分析に役立てられる点にある。たとえば「多い」という表現は人によって受け止め方が異なるが、数値で表せば間違いない。他との比較や推移、ランキング、相関関係なども、統計資料によって得られる情報である。また、科学分野を網羅するデータブックとしては、理科年表がある。

年鑑	ある事柄や分野の一年間の社会の動きや展望、統計を解説・収録したもの。
白書	官公庁などが刊行する政治社会経済の実態や政府の施策の現状をまとめたもの。これらは冊子の形で出版されているほか、白書はウェブサイトでも公開されている。

① なるほど統計学園高等部 <http://www.stat.go.jp/koukou/index.htm>

総務省統計局が公開する中高生向けの統計サイト。統計資料はもちろん、統計を学べる資料や、グラフの作り方のアドバイスや事例、自由研究の進め方なども収録されている。

② e-Stat (イースタット) <http://www.e-stat.go.jp>

「e-Stat」を利用すると、各府省のホームページ上で提供されている統計資料をまとめて検索することができ、データをダウンロードすることも可能。

③ 帝国データバンク <http://www.tdb.co.jp/report/>

企業信用調査会社である帝国データバンクが提供する統計、レポート。倒産情報、景気動向調査など、経済分析や就職の検討に役立つ情報が掲載されている。

④ 社会実情データ図録 Honkawa Data Tribune <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/index.html>

官庁や国際機関、新聞社などが作成した様々な統計データをまとめた、専門家によるウェブサイト。

(5) Web サイト

Web サイトの情報は、目的の情報に簡単にアクセスできるというメリットがある。一方、誰でも情報発信できるため、不確かな情報や誤った情報も混在した状態である、という点に注意が必要である。使いこなすためには、情報の信頼性を判断する力（情報の評価）が必要なメディアである。

Web 上の情報の評価

- ① 発信者（ページ作成者）は誰か？
- ② 引用と出典が明記されているか？
- ③ いつ時点の情報か（更新日はいつか）？

Web サイトの出典の書き方の例

Web サイト開設者「アクセスしたページのタイトル」『トップページのタイトル』URL 参照日

群馬県立桐生高等学校「桐生高校 SSH」『桐生高校』<http://www.kiryu-hs.gsn.ed.jp/SSH/index.html> 参照日：2017年6月12日

(6) フィールドワーク

研究テーマに応じた場所を実際に訪れたり、その対象を直接観察や見学し、関係者にインタビューやアンケート調査などをするをフィールドワークという。フィールドワークの際には、見聞きしたことや気になったことを、忘れないうちに、すぐに詳しくメモしておき、現地で入手した資料や撮影した写真をノートやファイルに貼り付けておくことが大切である。

①自分の研究にフィールドワークは必要(有効)か？

自分の研究でフィールドワークが必要(有効)なのかを検証しましょう。社会学や地質学、古生物学など、フィールドワークが重視される分野と、そうでない分野があります。すでに調査されていないか、フィールドワークでしか得られない情報なのかを考えてみる必要がある。

②フィールドワークの対象は？

人、集団、国、動植物、土地など多岐にわたります。何を調べて、どんな情報を得たいのかを明確にしておくことが大切である。

③フィールドワークの方法は？

野外調査、参与観察(地域や集団に参加)、文献調査(予備調査)、アンケート調査、インタビュー調査などがある。

課題6 〈個人 課題④〉 図書の分類を知る。 (10分)

(1) ねらい

- 図書館で資料を探す際の基礎的な考え方を知る。

(2) 内容 (取り組むこと)

- ① 次の書籍を図書館で探したい。日本十進分類法 (NDC) の 1 桁目と 2 桁目 (第 2 区分まで) の番号のどこの書架を探せばよいだろうか。NDC の表を参考に自分の考えを下の表に書いてください。

川村 康文 『理論がわかる電気の手づくり実験』 オーム社 2012 年

- ② タブレット等を使い、国立国会図書館の蔵書検索システム (NDL-OPAC) にアクセスし、NDC の分類番号を調べ、下の表に記入する。
- ③ タブレット等を使い、太田市立図書館か高崎市立図書館のどちらかのサイトにアクセスし、NDC の分類番号を調べ、下の表に記入する。
- ④ 自分の考えと調べた結果を比べ、感じたことや感想を記入してください。

		番号（1桁目と2桁目） (00～99のうちどれか?を書く)	分類名
自分で考えた番号			
NDL-OPACの検索結果			
どちらか	太田市立図書館		
一方でよい	高崎市立図書館		

気づいたことや感想を記入

課題7 〈個人 課題⑤〉インターネットを利用した論文・学術雑誌の検索を行う。（10分）

(1) ねらい

- インターネットを利用した論文・学術雑誌の検索を体験する。

(2) 内容

- ① 物体が重力のみを受けて落下するときに、どのように運動しているかを解析するためには「重力加速度」というものが関係している。重力加速度の測定に関係した情報を集めるためにタブレット等を使い、次の方法で調べてみる。（重力加速度の定義を調べてから取り組んでもよい。）

方法1 CiNii (Citation Information by Nii / 「サイニィ」と読む) <http://ci.nii.ac.jp/> の論文検索から 論文検索の本文ありで「重力加速度の測定」と入力し、検索する。

方法2 Google Scholar(グーグルスカラー) <http://scholar.google.co.jp/> の検索から「重力加速度の測定」と入力し、検索する。

- ② **方法1**、**方法2**の検索で本文が見られるものを1つ選び、論文の出典の書き方の例を参考に出典を書いてみましょう。

参考文献

市古みどり他『アカデミック・スキルズ 資料検索入門』慶応義塾大学出版会、2014年

佐藤望他『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会、2012年

山田剛史、林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年

日本図書館協会図書館利用教育委員会『情報リテラシー教育の実践』日本図書館協会、2010年

後藤芳文他『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部、2014年

川村 康文『理論がわかる電気の手づくり実験』オーム社 2012年

振り返り <リフレクションシートの記入及び回収>

情報収集力 リフレクションシート

年		組		番号		氏名	
---	--	---	--	----	--	----	--

1 日時： _____月 _____日 () _____校時

2 振り返り

Q 1 : 情報を収集する際に、どのようなことに注意をしなければならないかを今回の授業を受ける前の自分が分かるように説明してください。

--

Q 2 : 今回取り組んだ内容について、疑問に思ったことやもっと知りたいと感じたことについて述べよ。

--

以下、該当する番号のマークを塗りつぶしてください。

Q3 クリティカルシンキングのワークにあなたはどのように関わりましたか。 ①積極的にできた ②まあまあ取り組めた ③うまく参加できなかった	①	②	③			●
Q4 今回の授業の難易度はどうでしたか。 ①易しかった ②ちょうど良かった ③難しかった	①	②	③			●
Q5 今回の授業の時間設定はどうでしたか。 ①時間が余ってしまった ②ちょうどよかった ③時間が足りなかった	①	②	③			●



教師用資料

4章 情報収集力【授業デザイン】

今回の授業の位置づけ

- 実際に行う研究テーマについての情報を収集することが目的ではない。
- インターネットを用いた情報検索を一度、体験する機会とする。

ねらい

- 情報を収集するためのメディアの種類と特性を学ぶ。
- 情報を収集する際に、注意すべきことや有効なツールがあることを知る。
- 集めた情報の引用の仕方を学ぶ。

※実際の探究活動や課題研究は、「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」のプロセスであるが、情報収集がこの順に1度だけではなく、必要に応じて、いつでも何回でも実施されることが望まれる。

時間	ねらい・内容・留意点
準備 (5分)	①プリント、 課題2 で使用する付箋及び付箋を張るシート（A3用紙へ印刷）の配布 ②4人グループの作成（4人グループにできないときは3人グループ） ③グループで机を向かい合わせにする。
課題1 (5分)	〈個人課題①〉 資料を読んで理解 (1) ねらい ①情報を収集するために必要な基礎的な考え方を知る。 (2) 内容 ①各自が〈資料①〉を読む。
課題2 (10分)	〈グループ課題①〉 情報の生産と流通 (1) ねらい ①さまざまな種類の情報がどのように生産され、流通しているのかを学ぶ。 (2) 内容 ①グループ内で分担し、以下のメディアを1つずつ付箋にかく。 一般雑誌 Web 学術雑誌 教科書 公的資料 新聞 辞書・事典 テレビ 図書 ラジオ ②グループで相談し、メディア名を書いた付箋を、情報が生産されてから取得できるまでの時間（＝情報のまとめ具合）にあわせて貼る。 課題2 情報の生産と流通

	(3) 留意点 課題終了後等に以下の解答例を示してもよい。 課題2 情報の生産と流通
課題3 (15分)	〈個人課題②〉 メディアの特性を考える (1) ねらい ①情報を収集するためには多様なメディアがあることを知る。 ②メディアの長所と短所を考えることで、その特性への理解を深める。 (2) 内容 ①以下のメディアについて、各自がその長所と短所、およびその理由を考え、表に記入する。 【図書 新聞・一般雑誌 論文・学術雑誌 データベース Web サイト 映像・音声 フィールドワーク】
課題4 (10分)	〈グループ課題②〉 個人で考えたメディアの特性を共有 (1) ねらい ①メディアの長所と短所を他者と共有し、その特性への理解を深める。 ②グループで知恵を寄せ合うことで、より多様な考えが広がっていくことを体感する。 (2) 内容 課題3で考えたメディアの長所と短所をグループで共有し、赤ペンで自分の考えになかった部分や気づかされた部分を課題3の表に付け足す。 (3) 留意点 解答例は〈課題4 解答例〉参照
課題5 (15分) 1コマ目 終了↓	〈個人課題③〉 資料を読んで理解 (1) ねらい ①情報収集を行うための各メディアについて基礎的な内容を知る。 (2) 内容 ①各自が〈資料①〉の続きである以下の〈資料②〉を読む。
課題6 (10分)	〈個人課題④〉 図書の分類を知る。 (1) ねらい ①図書館で資料を探す際の基礎的な考え方を知る。

(2) 内容

- ① 次の書籍を図書館で探したい。日本十進分類法（NDC）の 1 桁目と 2 桁目（第 2 区分まで）の番号のどこの書架を探せばよいだろうか。NDC の表を参考に自分の考えを下の表に書いてください。

川村 康文 『理論がわかる電気の手づくり実験』 オーム社 2012 年

- ② タブレット等を使い、国立国会図書館の蔵書検索システム（NDL-OPAC）にアクセスし、NDC の分類番号を調べ、下の表に記入する。
- ③ タブレット等を使い、太田市立図書館か高崎市立図書館のどちらかのサイトにアクセスし、NDC の分類番号を調べ、下の表に記入する。
- ④ 自分の考えと調べた結果を比べ、感じたことや感想を記入してください。

		番号（1 桁目と 2 桁目） （00～99 のうちどれか？を書く）	分類名
自分で考えた番号			
NDL-OPAC の検索結果		54（3 桁では 540）	電気工学、電子工学
どちらか	太田市立図書館	42（3 桁では 427）	物理学
一方でよい	高崎市立図書館	42（3 桁では 427）	物理学

気づいたことや感想を記入

(3) 留意点

① 伝達事項

「NDC の分類番号は図書館の特徴によって決められるので、今回の問題のように、同じ書籍でも図書館によって異なる書架に所蔵されています。図書館で書籍を探す際はこのような事例も踏まえて、検索してください。また、このような例を見つけてみてください。」

② 検索結果は〈課題6検索結果〉参照

課題 7

(10 分)

〈個人課題⑤〉インターネットを利用した論文・学術雑誌の検索を行う。

(1) ねらい

- ① インターネットを利用した論文・学術雑誌の検索を体験する。

(2) 内容

- ① 物体が重力のみを受けて落下するときに、どのように運動しているかを解析するためには「重力加速度」というものが関係している。重力加速度の測定に関係した情報を集めるためにタブレット等を使い、次の方法で調べてみる。

方法 1 CiNii (Citation Information by Nii / 「サイニィ」と読む) <http://ci.nii.ac.jp/> の論文検索から **論文検索の本文あり** で「重力加速度の測定」と入力し、検索する。

方法 2 Google Scholar(グーグルスカラー) <http://scholar.google.co.jp/> の検索から「重力加速度の測定」と入力し、検索する。

	②方法1、方法2の検索で本文が見られるものを1つ選び、論文の出典の書き方の例を参考に 出典を書いてみましょう。
振り返り (10分)	リフレクションシートの記入及び回収

〈課題4 解答例〉

メディアの長所と短所解答例

メディア	長所	短所
図書	●編集者などのチェックを受けてから出版されるため、信頼性は高め。 ●出来事が起こってから時間がたっている分、多くの情報が蓄積されている。	●出版まで時間がかかるので、速報性は低い。 ●発行年度によっては情報が古い。
新聞・ 一般雑誌	●出版間隔が短いので、速報性は高め。 ●新聞は時事問題に適している。 ●雑誌は分野に分かれていることが多いので、調べやすい。	●新聞社によって記事の観点が異なる。 ●雑誌は必ずしも中立でない場合がある。(広告収入に影響を与えない記事である)
論文・ 学術雑誌	●査読により審査されており、引用や参考文献を明記してあるため、信頼性は高い。 ●データベース化されることが多い。	●読解には専門的な知識が必要とされる場合が多い。
データベース (統計資料)	●国や地方自治体などが発信する公的な統計は信頼性が高く、無料である。 ●インターネット上でも公開が進んでいる。	●民間の企業などが専門調査をしたビジネスデータなどは、有料のものがある。
Web サイト	●速報性に優れ、リアルタイムの情報を取得できる。	●誰でも情報が公開できるため、その信頼性の判断には十分な注意が必要。
映像・音声 (テレビ・ラジオ・Web等)	●速報性に優れている。 ●映像が持つ影響力やインパクトが強い。	●速報性に優れているため、情報量が少なく、断片的な情報である。
フィールドワーク (実地調査)	●自ら調べたものなので、信頼性は高い。	●時間も手間もかかる。 ●統計学的な処理が必要。 ●取材先が特殊な場合や、サンプル数が少ない場合、一般化するのは慎重に行う。

〈課題6検索結果〉

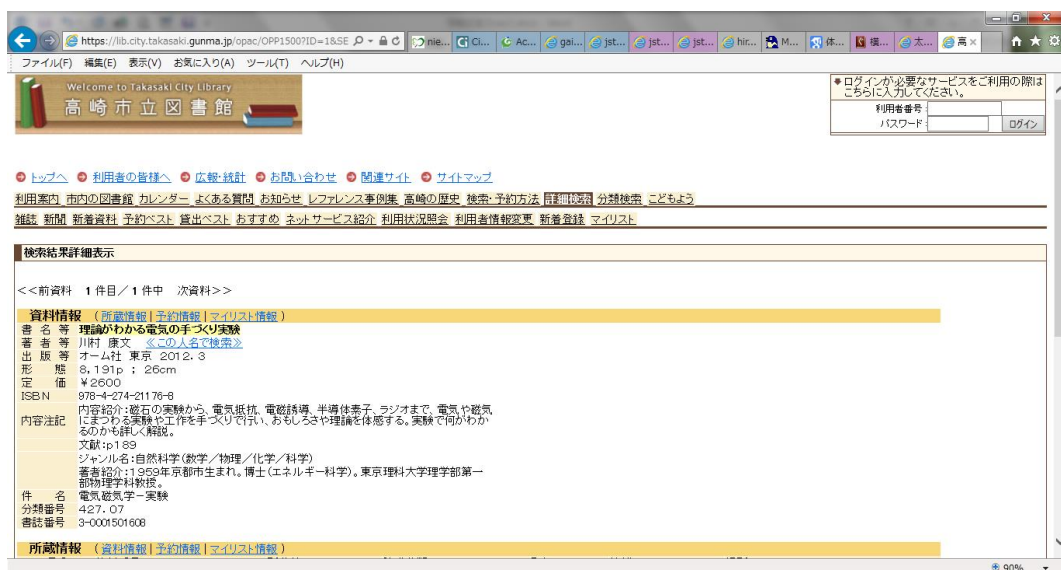
国立国会図書館の蔵書検索システム（NDL-OPAC）の検索結果



太田市立図書館のサイトでの検索結果



高崎市立図書館のサイトでの検索結果



課題2 情報の生産と流通

